

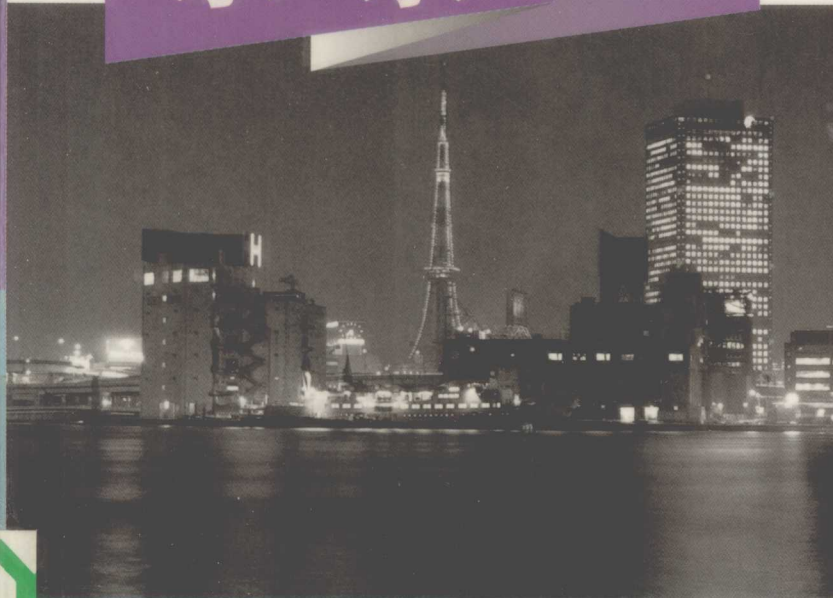
日汉对照

陈致仪 张世和
唐敦挚 杨 鸿 编著

世界名城风情丛书

TOKYO SCENES

东京 风情



31

东方出版中心



日汉对照

世界名城风情丛书

陈致仪 张世和 编著
唐敦挚 杨 鸿

M369.4 : K931

东 京

P.
风 情

东方出版中心

图书在版编目 (CIP) 数据

东京风情:日汉对照/陈致仪等编著. —上海: 东方出版中心, 2001. 1

(世界名城风情丛书)

ISBN 7-80627-620-3

I. 东... II. 陈... III. 日语-对照读物-日、汉

IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2000) 第 49703 号

东京风情 (日汉对照)

出版发行: 东方出版中心

地址: 上海市仙霞路 335 号

电话: 62417400

邮政编码: 200336

经销: 新华书店上海发行所

印刷: 昆山市亭林印刷总厂

开本: 787×960 毫米 1/32

字数: 220 千

印张: 12 插页: 6

印数: 5,000

版次: 2001 年 1 月第 1 版第 1 次印刷

ISBN 7-80627-620-3/H·64

定价: 15.00 元

版权所有, 侵权必究。

目 録 (目 录)

1. 東京	3
東京	203
2. 自然	8
自然	207
3. 産業	13
产业	211
4. 交通	23
交通	220
5. 歴史	34
历史	230
6. 社会文化	45
社会文化	240
7. 文化財	53
文化遗产	247
8. 江戸・東京の言葉	55
江戸-东京的语言	249
9. 江戸・東京の風姿	61
江戸-东京的风采	253
10. 東京おもな年中行事	67
东京的仪式活动	258
11. 皇居	79
皇居	268
12. 明治神宮とその周辺	83

明治神宮及其周围	272
13. 神田	85
神田	274
14. 上野	86
上野	275
15. 銀座	90
銀座	279
16. 新宿	93
新宿	282
17. 原宿	96
原宿	285
18. 渋谷	97
涩谷	286
19. 池袋	99
池袋	288
20. 浅草	101
浅草	290
21. 東京国際フォーラム	105
东京国际会议中心	294
22. 国会議事堂	106
国会议事堂	295
23. 国立国会図書館	110
国立国会图书馆	299
24. 東京国立博物館	113
东京国立博物馆	302
25. 国立科学博物館	116
国立科学博物馆	304

26. 東京大学	118
東京大学	306
27. 慶応義塾大学	122
庆应义塾大学	310
28. ディズニーランド	125
迪士尼乐园	312
29. 東京タワー	127
东京塔	314
30. 東京湾	131
东京湾	317
31. 歌舞伎	135
歌舞伎	320
32. 芸能人・劇場	138
艺人、剧场	322
33. 家族と教育	142
家庭和教育	325
34. 東京の悩み	147
东京的烦恼	329
35. 関東大震災	150
关东大地震	331
36. 日本の金融	153
日本的金融	334
37. 日本の銀行	156
日本的银行	336
38. 日本の保険	160
日本的保险	339
39. 東京証券取引所	163

东京证券交易所	342
40. 東京大都市圏	165
东京大都市圏	344
41. 東京 VSほかの都市	175
东京与别的城市比较	353
42. 東京都行政機関	181
东京都行政机关	358

付録(附录)

1. 東京都文化施設一覧	186
东京都文化设施一览表	363
2. 東京都略年表	194
东京都略年表	370
3. 東京都データ	199
东京都数据统计	374

主要参考和引用資料	376
-----------------	-----

日 语 原 文

.

1. 東 京

関東地方の南西部にあり、日本国の首都。東は江戸川を境として千葉県に、北は内陸県の埼玉県に、西端は関東山地を境として山梨県に、南は境川・多摩川などを境として神奈川県に、それぞれ接している。その面積は二一五六・三五平方キロで、大阪府・香川県に次いで全国では第三番目に小さいが、伊豆・小笠原などの諸島を含んでおり、南鳥島は日本の最東端、沖ノ鳥島は日本の最南端となっていて、太平洋上に広く広がっている。東京の人口は世界でもっとも多い都市の一つで、全国の約1割を占めている。東京は、江戸時代三〇〇年幕政の中心であった江戸を基盤として発達した。現在も日本の首都であると同時に政治・経済・文化・交通の中心であり、周辺の各県域におよぶ首都圏を形成している。

東京は日本最大の平野である関東平野を背景とし、東京湾奥の水陸交通の要地に位置する。明治新政府が拠点を選定するにあたり、旧幕府勢力の根拠地江戸の掌握と古い都からの脱却という政治的意図のもとにこの地が選ばれ、一八六八年(慶応四)七月一七日、京都より東方にあることから旧称江戸を東京と改名した。なお一八九八年(明治三

一)一〇月一日自治制を施行した日を「都民の日」として一九五二年(昭和二七)に制定した。

東京都の中心部は二三の特別区からなり、ここが本来の東京で、市域といえ一般にこの二三区の範囲をいう。江戸時代の城下町の範囲は、一八一八年(文政一)江戸図に朱線を引いて範囲を決めた朱引内(朱引地)、また御府内に該当する。一八七八年の郡区町村編成法によって東京府は一五区六郡(荏原、南豊島、北豊島、南葛飾、東多摩、南足立六郡。一八九六年南豊島、東多摩両郡合併して豊多摩郡となる)に編成された。三多摩および島嶼の地区は神奈川県に属した。一八八九年(明治二二)市制が施行され一五区は東京市となり、東京府と二重構造をもつこととなったが、島嶼地区は一八七八年、政府の力が行き届くよう東京府へ編入されている。さらに三多摩地区は東京市の上水道確保と三多摩の自由民権運動抑圧のため、一八九三年に東京府に編入された。東京の都市化の進展に対処して東京市は一九三二年(昭和七)五郡八二町村を合併して三五区となる。一九四三年都制が施行され、東京府、東京市を廃して、この全域を管轄する東京都が誕生、一九四七年区の配置分合により二二区、同年二三区となり、現在に至っている。官選の知事が都と区部を支配することとなった。一九四五年三月一〇日、四月一三日、五月二五日などに激しい空襲を受け、七七万戸の焼壊家屋と一五万人もの死者を出し、区部の大半が破壊さ

れた。戦後その中心部は復興をみたが、三多摩地区への移住が目だち、区部は再編成されることとなり一九四七年(昭和二二)二三区となった。また都知事は公選となり民主化の途を進む。三多摩地区の都市化に伴い市制施行地が多く、二六市が成立、ほかに西多摩郡に五町一村、大島支庁に一町三村、三宅支庁に二村、八丈支庁に一町一村、小笠原支庁に一村が置かれている(一九八七)。

火山島の島嶼部を除く地区は、西から東へと関東山地、多摩・狭山などの丘陵地、武蔵野台地、沿岸の沖積低地へと高さを減じているが、山地以外の地は都市化が進展し巨大な人口集積地となり、東京大都市圏の主要部を形成している。都市化の進展によって農林水産業は山地や島嶼部を除いて著しく衰退し、工業・商業活動が活発である。とくに首都として、近年の情報化時代を迎えて中枢管理機能が目覚ましく発展し、日本の「頭脳」部分にあたっている。

人口は都道府県のうち最大で、一九九五年の国勢調査では一一七七万四〇〇〇人全国総人口の九・八%と約一割を占める。一九二〇年(大正九)の第一回の国勢調査では三六九万九四二八人であったが、一九六二年に一〇〇〇万人を超え、六五年には一〇八六万九二四四人となった。その後は人口過集中に伴う生活環境の悪化、地価高騰による住宅難、首都圏整備法に基づく工場・学校の新増設の抑制などによって、人口の増加率は減少し始め、

一九八〇年には人口減少(都道府県では東京都のみ)をみるに至った。しかし、一九八五年にはふたたび人口の増加となっているが、一九八〇～一九八五年の五年間の人口増加率は一・八%と全国平均の三・四%に比べて低い。通勤圏で示される東京大都市圏の範囲は都心から半径約五〇キロメートルに及び、この範囲の人口は全国の二割以上に達している。

東京都の人口密度は一平方キロ当たり五四八六人で、全国最高を示し、最低の北海道(六八人)と比べると、実に八〇倍近くのコミ方といえる。男女比は、全国では女性のほうがやや多いが、就業機会の多い東京都では反対に男性のほうが八万〇六七八人多くなっている。特別区部人口は八三五万三六七四人で、五年前よりわずか一七八一人多くなっているにすぎず、停滞ぎみとみてよい。その区部人口を含む市部人口は一一六七万〇五七一人で、都市人口比は九八・七%を示し、ほとんどの人が都市生活を営んでいる。

都心部では事務管理機能や中心商業機能の充実に伴って夜間人口は減少している。この範囲をみると、一九三五年では千代田、中央の二区、一九四〇年では港区が加わり、都心三区は夜間人口減少の著しい地域といわれてきた。しかし、その範囲はしだいに拡大し、八〇年では二三区のうち一九区が夜間人口の減少を示した。しかし、八五年に東京都の人口がふたたび増加したのに応じ、品川、大

田、世田谷、板橋の四区は人口減少から増加へと転じた。都心部の人口減少に対し、郊外へと住宅地を求めるため郊外の三多摩地区では人口増加が著しい。この現象をドーナツ化現象とよぶが、この傾向は近年弱まっており、多摩ニュータウンの多摩市および八王子市、羽村町、日の出町の縁辺部のみが高い数字をみせている。一方、山村の奥多摩町、檜原村と島嶼地域は人口減少を続け過疎地域となっている。

産業別人口構成では第三次産業が約三分の二を占め、第一次産業では一％以下と全国でもっとも偏りが大きい。年齢別人口構成では二十代の若年層が多く、十代前半の幼年層が少なく、大都市の特色を示しているが、その傾向は近年弱まって平均化に向かっている。全国では老齢化の傾向が著しいが、生産年齢人口の多い東京都でも予想に反し老齢人口比は全国平均に近く、低くはない。

2. 自 然

地形 西部は標高一五〇〇～二〇〇〇メートルの関東山地の一部で、東京都で最高の雲取山(二〇一八メートル)は、埼玉・山梨両県と東京都との境にそびえている。山地は南東方向に低くなり、山麓の一部に高尾山(六〇〇メートル)がある。山梨県大菩薩嶺から流れる丹波川は東京都へ入って雲取山から流れる日原川と合流して多摩川となり、さらに下流で秋川、浅川をあわせる。これら本・支流が山地を離れる所に青梅、五日市、八王子の谷口集落が成立している。川は山地を深く侵食して多摩溪谷、秋川溪谷など溪谷美を形成しているが、両岸には数段の河岸段丘が発達していて重要な生活舞台を提供している。日原川沿いには石灰岩があり、日原鍾乳洞を形成するほか、白壁用として江戸時代から石灰が採掘されている。山地の東方には標高七〇～三六〇メートルの加治、草花、加住、多摩の各丘陵が分布している。なお狭山丘陵のみは山地から分離して、台地の中にある。これらの丘陵は武蔵野台地と同じ多摩川につくった古い段丘であるが、台地より古い地質時代に形成され、樹枝状の侵食谷で開析され、多摩面(T面)とよぶ原形の平坦面は少なく起伏に富んでいる。多

摩丘陵はニュータウンの建設で、切り土・盛り土で平坦地化され、自然の形状と異なった人工地形を呈している。なお狭山丘陵内の侵食谷は出口がせき止められて多摩湖とよぶ上水道用の人工池となっている。

西部の大半は武蔵野台地とよぶ平坦な面で、青梅の中心市街地を頂点として扇形に広がっている。最高点は一九〇メートルで、東方に低下し、末端は二〇メートル前後の高度に終わっている。武蔵野台地の東方、標高約五〇メートルの所に、石神井、善福寺、井の頭などの湧水池が南北方向に並んでいる。この湧水帯を境として、東部と西部では地形や地質がやや異なっている。その東部を山手台地とよんでいる。

山手台地は多くの侵食谷で刻まれ、坂の多い山手景観をつくりあげている。不忍池に流れ込む藍染川(谷田川)、神田川(平川)、赤坂溜池のある谷、金杉川(上流は渋谷川、下流は古川)、目黒川などの侵食谷によって、赤羽・上野台、本郷・豊島台、淀橋台、赤坂・麻布台、芝・白金台、荏原台、田園調布・久ヶ原台など小さな台地群に分かれている。これらの台地群のうち、赤羽・上野台、本郷・豊島台、田園調布・久ヶ原台は武蔵野台地の西部と同じように古多摩川が削った所で、その面は武蔵野面(M面)とよばれる。それ以外の台地は、やや標高が大きく、より古い地質時代の浅海の海底面で、下末吉面(S面)とよばれる。

武蔵野台地の南端、国分寺や深大寺を結ぶ所に明瞭な崖が連なっている。これを国分寺崖線とよぶが、ここには湧水がみられ、清流が流れ景勝の地になっている。この崖線から南部は一段と低い平坦面で、立川面(Tc面)とよぶが、形成の時期は新しい。この立川面の南は、多摩川の沖積平野である。

山手台地の崖をみると、最上部には植物の腐植分が交じった表土(約一メートルの厚さ)があり、その下に関東ロームとよぶ赤土の層がある。この赤土は約五万年前、箱根火山が噴出したときに、西風によって運ばれた火山灰や軽石が堆積したもので、多孔質で水を通す。雨が降ると泥となり、乾燥すると風で吹き飛ばされ、冬には霜柱が立つ。この土は根菜類の栽培に適し、近郊野菜園芸地域となっている。

山手台地の東端は、赤羽—上野—皇居—芝—品川の御殿山を結ぶ所で、明瞭な崖で終わる。ここから東方は下町とよぶ沖積低地である。ここは、かつて台地が続き、隅田川や中川、江戸川などの侵食谷が形成されたが、その後海面が上昇して沖積層によって埋められてできた土地である。したがって、もとの谷の所は沖積層が海面下三〇メートル余りにも達し、軟弱な青灰色の泥層がある。明治以後、工場やビルの地下水がくみ上げられたため地盤沈下をおこし、隅田川と荒川の間はゼロメートル地帯とよばれるように、海面より低くな